

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900447		
法人名	株式会社リツワ		
事業所名	Lagom東五代 (Bユニット)		
所在地	〒021-0003 岩手県一関市東五代4番18号		
自己評価作成日	令和7年1月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅での生活を継続的にできるような、日常生活の中で役割を持ち、充実感のある生活が送れるよう支援している。家事や身の回りのこと、できるだけ自分でできるように支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県道一関大東線および一関平泉線の交叉点北東側に広がる新興住宅街の中に立地する3ユニット定員27人のグループホームである。名称の初めにつくLagomという言葉のように利用者一人ひとりに合った心地の良い最適な暮らし(Lagom)を実現するため、入浴は毎日可能、さらに特殊浴槽も備え、寝たきりの人でも安心して入浴できるほか、掃除や調理など自宅と同様にできる範囲で取り組んでもらっている。開設以来丸3年経過したが、コロナ禍でも面会制限は一切設けず、家族が多く訪れ、馴染みの関係を維持している。食事は冷蔵の食材が中心だが味は好評であり、行事食や誕生日食は職員が工夫して提供しているほか、寿司や蕎麦など好みのものを付近の店で外食している。春は遊水地公園などでの花見、秋は栗駒や平泉方面で紅葉狩りなど季節のドライブを楽しむほか、近くのスーパーへの買物、家族と一緒にの外食など日常的な外出支援を行っている。医療面では、県立磐井病院が協力医療機関となり、急変があった場合には必要な治療が受けられるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等で目指す施設像を共有し周知している。 日々の業務での改善案についても、目指す施設像に則しているかを判断基準とし、業務改善につなげている。	住み慣れた地域で、家族や地域の方たちとの関わりを保ちながら生活を継続するという運営理念を基本として、職員会議等で周知・理解を深めてもらいながら、ケアの実践につなげている。職員から改善や変更の提案が出された場合にも、常に理念に沿うものか吟味している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の除草作業や、他事業所の夏祭り等に参加し、交流の機会を図っている。	コロナ禍の中の令和4年1月開設ということもあり、地域とのつながりがまだ深まっていない面があるが、利用者が自発的に事業所周辺の除草を行ったり、近隣に所在する他の事業所の夏祭りに職員が参加するなど地域の一員として交流を模索する姿勢が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用相談や、施設利用以外の介護の相談も随時受けつけ、適宜対応している。 必要に応じて他の関係機関と連携し、問題解決に向けて働きかけを行っている、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	慣例的な報告になることが多く、具体的なサービス向上のための話し合いになることが少ない。 家族からの意見や要望には、随時対応している。	コロナが令和5年5月に5類感染症になったが、慎重を期して現在も書面による会議形態をとっている。内容としては、利用者の状況、職員の異動、イベントの企画などとなっている。委員には利用者・家族の代表、民生委員、行政区長、市高齢介護課及び地域包括センターの職員を委嘱している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の特性やサービス内容の周知を図り、一定の理解を得られている。	市高齢介護課とは介護認定の申請手続、入退所者の報告、コロナウィルス感染防止のためのマスクの配布などで、包括支援センターとは入居希望者の相談などで、緊密に連携している。生活保護受給者がおり、毎年市のケースワーカーが調査のため来所している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を理解するよう努め、玄関も夜間を除いて開放し、自由に出入りができるようにしている。 ベッド柵も適切に使用し、安全の確保に努めている。	経営法人の身体拘束に関する指針を基に事業所独自のマニュアルを策定し、職員が認識を持ってケアを実施している。3か月に1回開催する身体拘束適正化委員会には、管理者と各ユニットのリーダーが参加し理解を深めている。欠席した職員にも回覧等により共有している。玄関は治安のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や通報の義務を理解し、発生の防止や虐待に繋がりがかねない事案にも適宜対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な事例はないが、必要に応じて関係機関と連携し対応していけるよう関係を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、施設利用上の注意点や利用に際しての不安解消、疑問の解決を図っている。 利用中においても、問い合わせや要望には随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規程や重要事項説明書に苦情受付窓口を明記し、寄せられた場合には随時対応することとしている。 また事業所でLINEを使用し、家族からの要望受付のツールとして活用している。	開設以来、コロナ禍でも面会制限を一切しておらず、家族等が面会や利用者の通院のため来所した際などに、意見・要望を聞いている。LINE(モバイルアプリケーション)を9割以上(2月時点で27人中25人)の利用者・家族が使用し、気軽に要望や問い合わせなどに応じている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善の提案や意見は随時聞くこととし、提案された内容を一定期間試し、振り返りを行うことで、業務改善等につなげている。	普段から管理者と職員とのコミュニケーションがよくとれているため、特に改まった場を設定してはならず、随時意見や提案を聞いている。人材育成を目的として年に2回、職員が自己評価シートを記入し、管理者が面接して業務の振り返りをしてもらい気づきを促している。経営法人は全社員を対象に介護福祉士など資格取得の支援を行っている。最近の改善例としては車椅子体重計、レクリエーション用品の購入などが挙げられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良い環境で働けるよう、職員同士のコミュニケーションを図り、管理者を通じて代表者に提案を上げるシステムが構築されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得、スキルアップを会社としてバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設の夏祭りやマルシェに参加し、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況にとらわれず、入居後にも安心して過ごせるよう支援している。 普段の関りを通して、本人が望んでいることの把握に努め、趣味や役割等を随時提案し、充実感や楽しみが持てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談には随時対応し、サービス内容に理解が得られるよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の内容や、本人や家族が置かれている状況を踏まえ、必要に応じて他事業所の紹介や情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や配膳、片付け、共有部分の清掃や洗濯物の片づけ等、利用者一人ひとりが役割を持って生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	原則、面会や外出・外泊の制限はなく、入所後も家族との関係が継続できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	原則、面会や外出・外泊の制限はなく、入所後も家族との関係が継続できるよう支援している。	開設以来、コロナ禍を含め面会制限を一切設けていないので家族等が面会のほか一緒に外出する機会が多い。親戚や友人が訪れることもある。月に1回来所する理容師やパン屋とも新たな馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いにできない部分を補える関係性が出来ている。職員はトラブルに発展しないよう、適宜仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等による退居後も、必要に応じて入居相談に対応し、介護保険制度の説明や他事業所に関する情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の継続性を意識し、施設入居後も趣味や役割を持って生活できるよう支援している。	利用者の半数以上(現時点で27人中15人)は意思疎通が可能で、他の利用者は幾つかの選択肢から選んでもらったり、それが困難な人(5人位)には表情や仕草から把握に努めている。主な希望内容としては、外出、買物、食事に関するものとなっており、極力実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の継続性を意識し、施設入居後も趣味や役割を持って生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活の継続性を意識し、施設入居後も趣味や役割を持って生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員からの情報をもとに、適宜介護計画を見直している。	入居前に家庭訪問(アセスメント)し、本人、家族と話し合いを行い、その後も随時アセスメントを繰り返しながら、入居後は最初は暫定的に3か月の計画、その後は原則として6か月ごとに計画を策定している。計画見直しに当たっては、職員や医師の意見を聞きながら管理者(ケアマネジャーを兼務)が作成している。計画作成後は、家族に郵送又は面会時に説明している。	介護計画の作成はケアマネジャーの資格を有する管理者が行っていますが、チーム全体がスムーズに連携するためにファイルの閲覧だけでなく、カンファレンスの場などで意見交換・情報共有を徹底することが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を入力し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一般浴槽の他、特殊浴槽も設置し、幅広いADLに対応できるよう設備を整えている。また、希望者を募って買い物に出かける等、本人の希望実現に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内で完結することが多く、具体的な地域支援の把握や活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医を変更することなく、受診の支援をしている。必要に応じて職員が同行し情報提供している。 本人、家族の状況や希望も踏まえ、必要に応じて訪問診療への切り替えの提案や支援、情報提供を行っている。	基本的には入居前のかかりつけ医を受診することとしているが、医療機関が遠隔地の場合には事業所の協力医療機関などに変更している。歯科や眼科は近隣の開業医、精神科は市内の南光病院に通院している。家族が同行する際は1か月分の血圧はじめバイタルの状況などを記録した情報を提供し、受診結果を家族から確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が中心となり、受診の必要性の判断や必要な処置、内服薬の管理等を行い健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	普段から病院との関係作りに努めている。入退院における情報交換や共有もスムーズに行っており、急な入院や退院にも相互に対応できる関係が構築できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際に施設内で対応できること・対応が難しいこと、退居になる可能性等を明確に伝え、家族から一定の理解を得ている。 重度化した場合には、本人や家族の希望を踏まえ情報提供している。	重度化に関する指針を作成し、入居時に事業所で可能なサービスを説明している。事業所では看取りを前提に受け入れているが、重度化した利用者が医療機関に入院継続のままとなったため、開設以来丸3年で看取り実績はない。このように重度化した場合は医療機関への搬送・入院が現実的な対応だったが、昨年8月に看護師1人を採用し、以前に比べ重度の利用者への対応が向上している。	

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に急変時の対応を行っている。夜間等、看護師不在の際にも対応できるよう、救急搬送等について対応を統一している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず対応でき、地域の協力を得られる関係性構築には至っていない。	年2回火災を想定した避難訓練を実施し、うち1回は夜間に実施している。夜間は3ユニットで2人の職員が専従で配置しているが、最も近い職員は1～2分で駆けつけられる体制となっている。夜勤ハザードマップ上は、浸水想定区域には指定されていない。災害用の備蓄は、水を除き経営法人で一括管理している。	事業所の立地場所は市内の新興住宅街にあり、災害が発生した場合に地域との協力が得にくいことから、運営推進会議を対面で開催することにより、同会議委員である自治会長や民生委員と協議して、地域との協力関係を着実に築いていくことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語を基本として接し、尊厳の維持に努めている。必要に応じて居室で談話するなど、プライバシー保護にも努めている。	入浴や排泄介助などの際に、声掛けを含め尊厳の維持を大切にケアの実践に努めている。スピーチロックが起きた場合は、管理者がその場で注意している。入居前に居酒屋を営んでいた人には、キッチンで食器洗いや下ごしらえのみそ汁の具材を切ってもらうなど、過去の経験や特技を生かした生活を送ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中で、利用者の希望や要望を把握できるよう努めている。把握した内容については、実現の可能性を検討し、希望実現のために働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極端に日課を設ける事なく、利用者のペースに合わせたイベントを企画している。参加不参加も自由とし、負担にならない程度に参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や、美容院への外出、化粧品や衣服の買い物に行ける機会を設け、随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米を研ぐことや盛り付け、配膳、片付け等、食事に係る一連の業務に利用者が携わっている。利用者の中には、食器洗いが日課となり、声掛けがなくとも台所に立つなど、積極的に参加している。	食材の調達から調理は経営法人が一括管理し、チルド(冷蔵)の状態で事業所に配達され、温めて利用者に提供している。事業所で準備するのはご飯と味噌汁だけであるが、味は好評である。行事食も基本は配達だが、クリスマスや正月は事業所が独自に食事を作っている。誕生日にはケーキを作り祝っている。寿司や蕎麦を食べたい利用者は、少人数でまとまって近くの店で外食している。利用者に嗜好調査を行っており、肉料理や豚汁、刺身・天ぷらなどの希望もあり、法人本部に意向を伝えたり、近隣の大型スーパーで購入したり、献立に反映するよう工夫を加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食形態を変更し、必要な営業が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る利用者には随時声掛けしている。介助が必要な利用者に対しても、食後の口腔ケアを行い、清潔保持努めている。必要に応じて歯科医を受診するなどの支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて、随時使用するオムツ類を検討し、自立に向けた支援をしている。排泄のパターンや時間帯による排泄量を把握し、使い切れるような適切なパッドを使用するなど、家族のオムツ代の負担軽減も図っている。	タブレットに記録した排泄チェック表を確認しながら、トイレに誘導している。現在、排泄が自立している人が17人、おむつ交換が7人、全介助が3人となっている。自立者の中には、入居前に紙パンツだったが入居後布パンツに改善した3人が含まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、適度な運動を声掛けしている。必要に応じて下剤を調整し、負担がないよう排泄できるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り入浴できる機会が確保できるよう環境を整え、曜日や時間帯を固定せずに随時声掛けし支援している。	1人当たり週4回の入浴を目途としているが、希望すれば毎日入浴が可能である。機械浴槽も備え、現在7人が利用している。同性介助を基本としている。ゆず湯、菖蒲湯のほか希望に応じて入浴剤も使用している。入浴時は職員との会話を楽しんだり、歌を歌う人もいるなど楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで過ごせるよう支援している。必要に応じて声掛けて離床を促し、夜間の睡眠が確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な内服支援を行っている。必要に応じて医療機関との連携を図り、過度な薬剤使用にならないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者一人ひとりの趣味や嗜好、興味があることの把握に努め、負担にならない程度に参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへの買い物、ニュースや新聞で報道された季節ごとのイベントへの参加など、利用者の希望を踏まえて外出の機会を確保している。 外食の機会や、食材の買い出し、衣料品の買い物等に外出することもある。	春は近くの遊水地公園などに花見、ひな祭りには千厩町、秋は栗駒や平泉方面に紅葉狩りにドライブしている。すぐ近くの生協などに日常的に買い物に出掛けているほか、家族と一緒に外食をしている人も多い。事業所の駐車場で、職員と一緒に芋煮会を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則家族管理としているが、一定額を自分で管理している利用者もいる。 利用者によっては事務所での管理を依頼する場合もあり、随時対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : Lagom東五代 (Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて適宜支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を損なうことがないよう、適度に物を配置している。安全に生活できるようにも配慮し、安全な動線の確保、環境整備に努めている。	3年前に新築した建物は、床はフローリング、壁は白を基調にしており、住み心地の良さを感じさせる。エアコン、空気清浄機、ガスファンヒーターを設置し、一年中快適な生活ができる。大型テレビの周囲にテーブルと椅子を配置し、窓から外の景色も眺められる。利用者は3つのユニット間を自由に移動でき、一緒に歌ったりする人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下等、利用者の交流の場所と、プライベートな空間を区別し、不安なく過ごせるよう支援している。 利用者同士の部屋の行き来もあり、職員はトラブルに発展しないよう適宜仲介している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要最低限の物を施設備品として用意し、持ち込むものについては本人や家族の希望に基づいて個別に対応し、安心して過ごせる環境作りに配慮している。	居室にはエアコン、カーテン、洗面台、ベッド、三段箆が備え付けられ、利用者は好みでテレビ、ラジオ、衣装ケースを持ち込み、壁などに家族写真、自分の作品を飾っている。ベッド際にはナースコール用の押ボタンがあり、緊急時に職員が駆けつけられる。居室内の清掃ができる利用者は自らい、できない場合は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に応じて、そのユニットの利用者が手にしても問題ない物は共用部分に設置している。		